

指数関数的変化でやってくる 第4次産業革命の波

平成の30年間を振り返れば、ビジネスに与えた一番の大きな変化は、デジタル関連技術の進展だったのではないだろうか。それらを活用したビジネスモデルを生み出した企業が、いま、時価総額の大きな企業である。平成のはじめには、日本企業もその上位にあったが、30年で大きく入れ替わってしまった。

新元号を迎える2019年には、予定より1年前倒しで5Gの商用サービスが開始される様相だ。5Gは、社会システムや生活、ビジネスを大きく変える技術である。アイデアの実現次第で、新たに巨大な時価総額企業が誕生する可能性があり、わが国も通信各社と企業間で、すでにさまざまな実証実験が進められている。新たなデジタル技術や大量のデータを巧みに活用するには、これまでの延長線上にある発想ではなく、業界の壁を越え、業界の常識も越えて、誰も評価できないような発想から小さくはじめ、失敗を重ねながらもそこから大きなブレイクスルーを生むことが、実は近道なのかもしれない。

AIもますます性能は高まる。5GやAI、IoTの普及が進むことで、間違いなくビジネスや仕事の内容、働き方、求められる能力は変わる。技術の進歩は、社会構造や産業構造をも変えてしまう。ICTを取り巻くこの30年間の進展は指数関数的で、はじめはゆっくりでも、あるとき一気に進み、急激な進展はさまざまな業界に影響を与えてきた。

これからの変化も同様にやってくると想定して、個人も組織も変化が緩やかなうちに何をするかを構想し、チャレンジをつづけ、一気に変わるタイミングを好機として、日々進んでいる第4次産業革命という波に乗ってもらいたい。

【編集室 ^{フンビン} 文斌】